

⑩ 日本国特許庁 (J P)

⑪ 実用新案出願公告

⑫ 実用新案公報 (Y 2)

昭 61 - 7758

⑬ Int. Cl. 4

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公告 昭和 61 年 (1986) 3 月 10 日

A 63 H 30/04
H 01 C 10/20
H 04 B 1/034

1 0 4

2107-2C
7303-5E
C-6538-5K

(全 5 頁)

⑮ 考案の名称 ラジコン装置用ステック装置

⑯ 実 願 昭 56-172416

⑰ 公 開 昭 58-77796

⑱ 出 願 昭 56(1981)11月19日

⑲ 昭 58(1983)5月26日

⑳ 考 案 者 河 野 直 一 茂原市大芝 629 双葉電子工業株式会社内

㉑ 出 願 人 双葉電子工業株式会社 茂原市大芝 629

㉒ 審 査 官 三 輪 学

㉓ 参 考 文 献 実 開 昭 54-148292 (J P, U)

1

2

㉔ 実用新案登録請求の範囲

ラジコン装置の送信機ケースに配設される固定
フレームと、この固定フレームの内側に配設さ
れ、かつこの固定フレームと回動自在に軸着され
たドラム状の可動フレームと、この可動フレーム
の内側に配設され、かつこの可動フレームの回動
方向と直角方向に回動自在に軸着されたセンター
ブラケットと、このセンターブラケットに固定され
たステックレバーとを備えた構成になるラジコン
装置用ステック装置において、弾性体を巻装した
調整用ナット部を遊嵌配設した固定フレーム
と、前記調整用ナット部に螺合する位置に調整用
ビスを遊嵌配設した取付枠体部を固定フレーム上
端近傍に配設した回動軸により回動自在に軸着
し、前記取付枠体部を送信機ケースに取付け固定
するように構成されたことを特徴とするラジコン
装置用ステック装置。

考案の詳細な説明

この考案は、ラジコン装置（ラジオコントロー
ル装置の略称）に係わり、特にステック装置の固
定フレームをケースのパネル面より傾斜させるこ
とによりステックレバーのニュートラル位置を調
整することが可能なラジコン装置用ステック装置
に関するものである。

電波により、模型の自動車やボート、あるいは
飛行機やヘリコプターなどの被操縦体を遠隔操縦
するラジコン装置においては、送信機側に設けら
れた可変抵抗器の回転軸をステックレバーにより
回動操作するか、また可変抵抗器の回転軸を固定

し、可変抵抗器本体をステックレバーにより回動
操作することにより、送信機から発信される電波
を制御して、被操縦体側に搭載されている受信機
を介して各種サーボ機構の駆動量を制御し、被操
縦体の走行速度や方向などを制御している。

送信機は、一般に箱形のケースの正面にステッ
クレバーが配設されたものが使用されていて、両
手をケースの両側に当て、ケースを保持するとと
もに両手の親指をステックレバーの先端に当てて
ステックレバーを縦方向または、横方向に移動さ
せて操縦するのである。しかしてこのラジコン操
縦においては、被操縦体の動きを常に注視しなが
ら、機敏なステック操作と、微少量を正確に移動
させる微妙なステック操作が要求される。従つて
ステックレバーの操作もそれに適応できるようにな
つていなければならない。そのためには、ステ
ックレバーのニュートラル位置は重要な要素の一
つである。また操縦者は、大人から子供までいて
その手の大きさはまちまちである。従つてラジコ
ン装置の送信機のニュートラル位置も、あらかじめ
セットされた位置から個人に適した位置に変えら
れるように調整できることが理想的である。

従来のラジコン装置の送信機 1 は、第 1 図、第
2 図に示すように、送信機ケース 2 の正面の左右
に 1 対のステック装置 3 が配設されている。この
両方のステック装置の構造は、ほぼ同じであるの
で一方のみを縦断面した第 2 図を説明する。

ステック装置 3 は、前記送信機ケース 2 にねじ
止め固定するためのフランジ部 4 a と、正面に矩

3

形の窓部 4 b と、側部に固定された第 1 可変抵抗器 4 c とからなる固定フレーム 4 が配設されている。

又、前記第 1 可変抵抗器 4 c の回動軸 4 d と、前記回動軸 4 d と相対する位置に配設した軸 4 e によつて固定フレーム 4 内に軸着されたドラム状の可動フレーム 5 が回動自在に配設されている。前記可動フレーム 5 の正面にも矩形の窓部 5 a が配設され、前記固定フレーム 4 の窓部 4 b に臨んでいる。

更に、前記可動フレーム 5 の内側にセンターブラケット 6 が配設され、このセンターブラケット 6 の内側に第 2 可変抵抗器 6 a が固定されている。この第 2 可変抵抗器 6 a の軸 6 b と、相対する位置に配設された図示されない軸によつてセンターブラケット 6 を前記可動フレーム 5 に軸着している。このセンターブラケット 6 の正面には、ステックレバー 7 が固定され、前記可動フレーム 5 の窓部 5 a から突出している。ステック装置は以上説明したように構成され、前記フランジ部 4 a とケース 2 をビス 8 によりねじ止め固定されているため固定フレーム 4 とケース 2 は、一体に結合している。

このステック装置 3 を配設した送信機を操縦するには、両手でケース 2 を保持し、両手の親指をステックレバー 7 の先端に当て、ステックレバー 7 を縦・横・斜め方向に自由自在に移動させるのである。そこでステックレバー 7 を横方向のみに移動させると、ステックレバー 7 と一体に結合しているセンターブラケット 6 が、第 2 可変抵抗器 6 a の軸 6 b を中心に回動する。センターブラケット 6 が回動するとセンターブラケット 6 に固定されている第 2 可変抵抗器 6 a 本体も回動し、軸 6 b が固定されているので前記第 2 可変抵抗器 6 a の抵抗値を変化させ、制御することができる。またステックレバー 7 を縦方向に移動させると、センターブラケット 6 を介して可動フレーム 5 を第 1 可変抵抗器 4 c の回動軸 4 d を中心に回動させる。

しかして、第 1 可変抵抗器 4 c の回動軸 4 d を回動させることにより、抵抗値を変化させ、制御することができる。

また、斜め方向にステックレバー 7 を移動させると、可動フレーム 5 とセンターブラケット 6 が

4

一諸に回動し、第 1 可変抵抗器 4 c と第 2 可変抵抗器 6 a をともに制御することができる。

しかして、操縦者の中には手の小さな人もおり、そのような人は両手でケース 2 を保持し、両手の親指をステックレバー 7 に当てようとするが届きづらく、使いにくいという問題点があつた。しかしステックレバー 7 が、ニュートラル位置にある場合のステックレバーの突出位置は、固定フレーム 4 がケース 2 に固定されているために移動調節することは不可能であつた。

そこで本考案は、上述の事情に鑑みてなされたものであり、ステック装置の固定フレームを取付枠体部と軸着させ、この取付枠体部を介してケースに取り付け前記取付枠体と軸着している固定フレームを回動させることにより、固定フレームと軸着結合しているセンターブラケットに配設されているステックレバーを傾斜させ、ステックレバーの先端がケースの側部に近づくように調整することができ、操縦者の手に合い、最も持ちやすく、かつ操縦しやすいラジコン装置用ステック装置を提供することを目的とするものである。

以下図面に示す一実施例について、この考案を詳細に説明する。第 3 図は、本考案のラジコン装置用ステック装置の正面図であり、第 4 図は、縦断面図である。このステック装置は、第 3 図、第 4 図に示すように、センターブラケット 2 2 と可動フレーム 2 3 と、固定フレーム 2 4 と、取付枠体部 1 0 から構成されている。センターブラケット 2 2 には、ステックレバー 2 1 と第 2 可変抵抗器 2 2 a が固定されている。センターブラケット 2 2 は可動フレーム 2 3 に軸着されている。可動フレーム 2 3 は、固定フレーム 2 4 に軸着され、おのおの軸を中心として回動自在に構成されている。可動フレーム 2 3 の外側には、固定フレーム 2 4 が、前記可動フレーム 2 3 に配設された回動軸 2 3 a と、この回動軸 2 3 a と相対する位置に配設された第 1 可変抵抗器 2 5 の回動軸 2 5 a により軸着されている。このように固定フレーム 2 4 と、可動フレーム 2 3 とセンターブラケット 2 2 とがおのおの軸着結合している構成は従来例と同じである。固定フレーム 2 4 の側部には、調整用ナット部 2 6 が調整用ナット部嵌合穴 2 6 a に遊嵌配設されている。調整用ナット部 2 6 は第 5 図に示すようにナット 2 6 b とナット 2 6 b の下

5

方に横方向に貫通固定したストツバーピン28と前記ナット26bの外周に巻装された弾性体、例えば、コイルばね26cとから構成されている。調整用ナット部26の下端には、前記ナット部26を下側から保持するストツバー26eが配設されている。ストツバー26eは、前記可動フレーム23の回転軸23aを受ける軸受としても作用している。また固定フレーム24の外側の上端付近に回転軸24a、24aが配設されている。

前記固定フレーム24上端近傍に、前記回転軸24a、24aに軸着された取付枠体部10が配設される。取付枠体部10には、第6図に示すように、前記回転軸24aの軸受部27が配設されている。さらに前記調整用ナット部26に螺合する位置の取付枠体部10に貫通孔11を穿設する。この貫通孔11には、調整用ビス12を遊嵌させ、前記ナット部26aに螺合させる。また取付枠体部10には、第3図に示すようにケース20に固定するためのねじ穴13が穿設され、このねじ穴13に、固定ねじ14が螺合配設され、取付枠体部10をケース20に取付け固定されている。

従つて取付枠体部10は、ケース20と一体であるが、固定フレーム24は、取付枠体部10と回転自在に軸着されているとともに調整用ナット部26のコイルばね26cにより、取付枠体部10から離れる方向に付勢されているので、回転軸24a、24aを中心に第4図に示すB方向に回転する構成になっている。そこで調整用ナット部26に螺合している調整用ビス12をねじ込んでいくと取付枠体部10の貫通孔11と固定フレーム24の間隙が小さくなり、固定フレーム24は第4図に示すようにA方向に回転し次第に取付枠体部と平行になる。平行になるとステックレバー21は、従来例と同様にケース20の面に対して直角方向になる。逆に調節用ビス12を戻す方向に回転すると、取付枠体部10の貫通孔11から次第に固定フレーム24が離れるようにすなわち、第4図に示すB方向に回転軸24a、24aを中心として回転する。

しかして、固定フレーム24は次第に取付枠体部10の貫通孔11側すなわち外側に傾斜する。従つて固定フレーム24と軸着されている可動フレーム23、センターブラケット22も傾斜し、

6

センターブラケット22に固定されているステックレバー21を外側に傾斜させる。するとステックレバー21の先端はケース20の側部に近くに位置させることができる。

次に、第7図は、他の実施例であり取付枠体部10が回転軸15と取付枠16から構成から、回転軸15は固定フレーム24と回転軸24a、24aによつて軸着されて接続している。回転軸15は固定フレーム24とともに第7図矢印方向に移動させることができ、移動して所期位置で固定された状態でケースに固定するために別体に設けた取付枠16によりケースにねじ止固定した実施例である。回転軸15の外周には、複数の突起15aが放射状に配設されている。取付枠16の底面、すなわち前記回転軸15と接する面に前記突起15aの位置する場所に凹部16aを形成し、回転軸15が凹部の範囲内で矢印方向に回転移動することができるように構成されている。

従つてステックレバー21の操作角度を自由に選定することが可能になる。

本考案は、上記し、かつ図面に示した実施例に限定されるものではなく、その要旨を変更しない範囲で種々変形して実施できるものである。

以上説明したように、この考案によるラジコン装置用ステック装置によればステックレバーのニュートラル位置を簡単にかつ自由に設定することができるので手の小さい人でも、指の短い人でも容易にステックレバーに届くことができ、ステック操作がやりやすく、正確でかつ微妙な操作にも適応できるという得られる効果は、極めて大である。

図面の簡単な説明

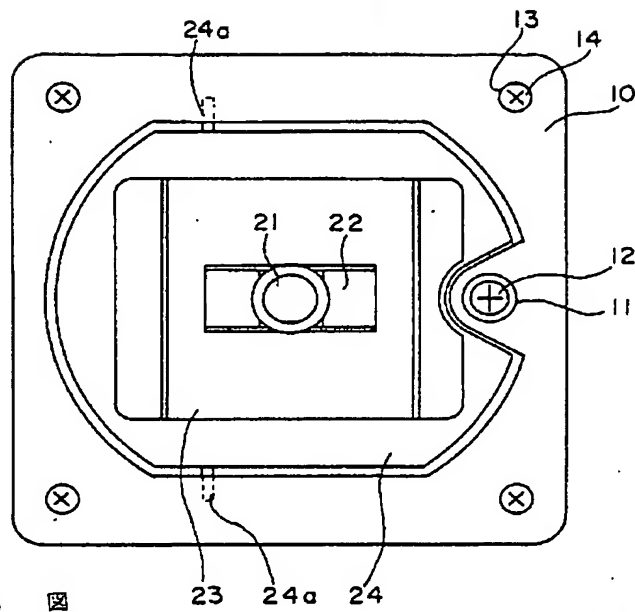
第1図は、従来のラジコン装置用送信機の正面図、第2図は、従来のラジコン装置用ステック装置の縦断面図、第3図及び第4図は、本考案のラジコン装置用ステック装置の一実施例を示す正面図及び縦断面図、第5図は、第4図X-X線の縦断面図、第6図は、回転軸の軸受部の縦断面図、第7図は、本考案の他の実施例の一部を破断した正面図である。

10……取付枠体部、11……調整用ビス貫通孔、12……調整用ビス、20……送信機ケース、21……ステックレバー、22……センターブラケット、23……可動フレーム、24……固

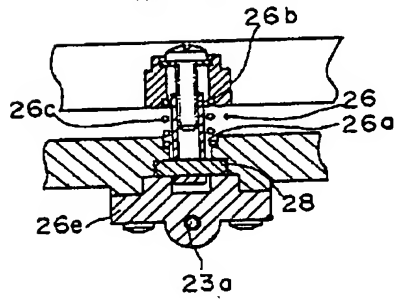
(5)

実公 昭 61-7758

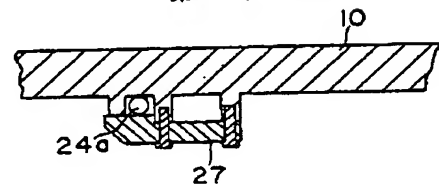
第 3 図



第 5 図



第 6 図



第 7 図

